

選定に必要な資料

(種目名 音楽器楽)

No.1

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	(1) 内容, 程度, 分量等	(2) 教材の選択や構成等	(3) 興味・関心を高める工夫	(4) 教科の特性, 島根県の実態や課題への適合等	(5) 発展的学習, 自学自習についての工夫	(6) その他	
G 教育出版	<p>・前半「演奏の仕方を身につけよう」で基礎的な知識や技能を習得し, 後半「合わせて演奏しよう」で合奏曲を通して奏法や楽曲の特徴を感じ取ることができるよう, 段階的に取り組める工夫がされている。</p> <p>・各楽器の基礎的な技能と楽曲が関連づけて配置されており, 楽曲の演奏を通して技能が習得できるように配慮されている。</p>	<p>・各楽器の導入部分では, それぞれの楽器の基礎的な知識や奏法について, 写真やイラストを使い簡潔にまとめられている。(p4-7, 20-22, 30-32, 40-46)</p> <p>・曲想が異なるボディパーカッションの教材が取り上げられており多様な表現の工夫ができるよう配慮されている。(p92-93)</p>	<p>・巻頭と巻末にある“With My Heart”では, 第一線で活躍する演奏家からのメッセージが掲載され, 音楽への関心を高めることができるよう配慮されている。(巻頭口絵①, p98)</p> <p>・三味線の糸の張り方や横笛を手作りするための設計図が紹介されており, 楽器の仕組みに興味関心をもつことができるよう配慮されている。(p42, 49①②)</p>	<p>・Let's playとLet's Tryでは, 各楽器の特徴を生かした合奏教材がクラシック, ポピュラー, 民謡などから幅広く取り上げられており, 生徒や各学校の実態に応じて選曲できるよう配慮されている。(p64-93)</p> <p>・「日本の楽器と音楽」が時代に沿って大きな写真と解説によりまとめられ, 伝統文化への理解を深めることができるよう配慮されている。(p48)</p>	<p>・アルトリコーダーの運指が楽譜のすぐ横に示してあり, 生徒の実態に応じて学習を進めることができるよう配慮されている。(p6-16)</p> <p>・リコーダーのトリル奏法やギターのタブラチュア譜が紹介されており, 生徒や各学校の実態に応じて学習を深めることができるよう配慮されている。(p18, 28-29, 78-79)</p>	<p>・ギターのダイアグラムに対応した写真や五線譜に対応した鍵盤図を示すことにより, コードを捉えやすくなるよう配慮されている。(巻末口絵③④)</p> <p>・アルトリコーダーの基礎練習曲にコードネームが示され他の楽器でアンサンブルができるように配慮されている。(p6, 8)</p>	<p>・幅広いジャンルの楽曲が掲載されており, 生徒や各学校の実態に応じて選曲できるよう配慮されている。</p> <p>・和楽器の特性をいかしたアンサンブル教材が複数取り上げられ, 発展的な学習を展開できるよう工夫されている。(p80-87)</p>
H 教育芸術社	<p>・各楽器の学習の前半では, 生徒の実態に合わせて基礎的な技能が習得できるよう平易な楽曲が扱われており, 基礎・基本の定着を図るよう構成されている。</p> <p>・「ここが分かればGrad up!」では身につけた力をもとに, 曲想や全体の響きを考えて音楽表現の工夫をしたり楽曲の構成を考えて創作をしたりすることができるように配慮されている。(p51, 53, 55)</p>	<p>・各楽器の導入部分では, それぞれの楽器の構造や特徴, 奏法について写真やイラストを使い簡潔にまとめられており, 理解しやすいように工夫されている。</p> <p>・「音楽学習MAP」では学習の支えとなる[共通事項]がマークによって明記されており, それぞれの楽器や楽曲で焦点化して学習する内容が確認できるよう配慮されている。(p2)</p>	<p>・「音を聴いて確かめよう」では各楽器の音色や響きに焦点を当てて特徴を理解することができるよう配慮されている。(p7, 19, 27, 36, 41, 43, 45, 48)</p> <p>・「楽器を知ろう」「和楽器こぼれ話」では楽器にまつわるコラムが記されており, 興味・関心を高められるよう配慮されている。(p3, 16, 24, 25, 32, 38, 42, 44)</p>	<p>・和楽器の演奏に関するだけでなく, 姿勢や構え方, 礼儀について解説されており, 我が国の伝統や音楽文化を理解できるよう配慮されている。(p26)</p> <p>・アンサンブル教材では[共通事項]を視点とした演奏のポイントが示されており, これまでの学習を生かした音楽表現ができる。(p56-85)</p>	<p>・アンサンブルセミナーは, アーティキュレーションの工夫やパートの役割, 曲の構成といった演奏の視点が示されており, 創意工夫しながら段階的に発展した活動ができるよう配慮されている。(p50-55)</p> <p>・箏を使った旋律創作の手順例が示されており, 創りたい音楽のイメージを持ち, 習得した奏法を使いながら創作できるよう配慮されている。(p31)</p>	<p>・演奏法を具体的に捉えられるようコマ撮りした写真が用いられ, 身体の使い方が理解できるよう配慮されている。(p30, 40)</p> <p>・ラテンパーカッションや合奏でよく使用する打楽器の基本的な奏法や練習方法が写真とともに分かりやすくまとめられており, 理解しやすいように工夫されている。(p46-49)</p>	<p>・リコーダーや和楽器をはじめとする各楽器の奏法と, 基本奏法で演奏できる楽譜が分かりやすく示してあり, 基礎・基本の定着を図ることができる点で優れている。(p4-11, 29, 46-49)</p> <p>・各楽器の導入においていくつかの鑑賞曲を紹介することで, 各楽器の音色に対するイメージや奏法に興味関心を持つことができるよう工夫されている。(p3, 16, 24, 32, 38, 42, 44)</p>